90-19-21148

慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社ユニバーサルビュー

―医療機器開発ベンチャーの挑戦（A）―

社員数わずか 14 名の開発ベンチャー、株式会社ユニバーサルビュー（以後、UV）。独自開発した角膜矯正用コンタクトレンズ・ブレスオーコレクト®（オルソケラトロジー）事業が黒字化したのは 2012 年の発売から 6 年経った 2018 年のことだった。2001 年の会社設立から実に 18 年もの歳月をかけてようやく次のステージが見えたそのとき、会社設立時にいた人間は開発者も含めて誰一人残っていなかった。

オルソケラトロジー：近視矯正の第 4 の方法

UV 社創設時の目的は、新規医療機器の開発ではなかった。当時の日本ではまだマイナーだったオルソケラトロジーを国内で普及させることだった。オルソケラトロジーは、欧米においては、コンタクトレンズ、メガネ、レーシックに次ぐ技術として近視治療の選択肢のひとつとされていた。レーシックと違って手術が不要なことは、18 才以下の子どもにとって新しく大きなマーケットになるであろうことも期待できた。（複数の近視矯正方法の比較については表 1 を参照）。

設立当初は、眼科医が医師免許に基づく個人輸入によって未承認医療機器を直接輸入の上、患者へ処方できる制度を活用、アメリカからオルソケラトロジーレンズを輸入していた。UV 社創業メンバーの 1 人で臨床技術者としてハードコンタクトレンズのデザイン、切削を手掛けることができた開発者の柳澤が日本人の角膜に合うようにデザインしなおしたものを UV 社が輸入代行していた。

UV 社の関与については、輸入だけをし続ける、という選択肢もあったが、日本人の角膜に合っていない以上、普及するには障壁となることが考えられた。もしも輸入だけであれば、この治療をとりいれる

このケースは、慶應義塾大学経営管理研究科　後藤 励准教授、株式会社ユニバーサルビュー代表取締役社長　鈴木太郎、鈴木奈津子によって作成された。ケース内の個人・企業名の多くは仮名としている。なお、このケースはクラス討議のための資料としてまとめられたものであり、経営管理に関する適切あるいは不適切な処理を示すことを意図したものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は http://www.bookpark.ne.jp/kbs/ から。

Copyright © 後藤 励、鈴木太郎、鈴木奈津子（2019 年 10 月作成）